



World Conference on Disaster Reduction
18-22 January 2005, Kobe, Hyogo, Japan

Title	Presentation of the results of "Research Committee on Kobe Ground and Disaster Mitigations"
Organizations	K w a n s e i G a k u i n U n i v e r s i t y
Speakers	Coordinator : Prof. Masaaki Noda (野田正彰 関西学院大学教授) Panelist : Mr. Shigeyuki Aoki (青木しげゆき 「神戸の冬を支える会」事務局長) Dr. Hideo Isa (伊佐秀夫 クリニック希望院長) Prof. Kiyoshi Ikeda (池田 清 下関市立大学経済学部教授)
Report	「人はなぜ大震災の救援に駆けつけるのであろうか。困っている人がいるから。本当にそうであらうか。救命のためなら、救助、搬送のシステム造りが重要である。経済的援助なら、募金活動や行政による配慮の行き届いた援助が必要である。災害ボランティアが被災者にもたらすものは、「不幸な目に会ったけれど、この社会は信じられる」という交流のメッセージではないだろうか。阪神・淡路大震災から十年、最も多くの死者を出した神戸市長田区を対象に、なぜ多くの人々が焼死したのか、どうして住民は帰ってこれないのか、そこにはボランティアのメッセージは届いたのか」という野田コーディネーターからの発題、及び3名のパネリストからの報告と問題提起(青木氏「被災地に見るホームレス救援の日々」、伊佐氏「仮設住宅、復興住宅での被災者医療の十年～減らない孤独死をどうするのか～」、池田氏「被災地神戸の生活経済苦を考える～激甚被災地名長田区の失われた十年～」)をもとに地域のなかに世界の救援の問題を圧縮して考えてみた。
TEL	0 7 9 8 - 5 4 - 6 1 0 4
FAX	0 7 9 8 - 5 4 - 6 9 0 5
E-mail	research@kgo.kwansei.ac.jp
URL	http://www.kwansei.ac.jp